



連載

パトロネージュ・システム Q&A

第6回

(最終回)

オーケストラの今を支えてくださる支援者を増やすだけではなく、“未来”のファンを増やしていくことも私たちオーケストラにとって大切なこと。最終回ではパトロネージュ・システムというセクションを超え、オーケストラの今後を見つめます。

未来の子どもたちへ音楽を！

クラシック音楽は“世界の財産”のひとつだと思います。皆で守り、次世代に引き継ぐべき大切なもの。だからこそ誰もが音楽を聴く権利を享受できるようにする必要があります。音楽を聴いたその“時間”や聴いたときの“情景”が思い出となっておお客様の人生の一部に残ればと願っています。



2010年12月7日 オーケストラ鑑賞教室より 宮川彬良さんとの楽しいひととき

これから20年後、30年後……と将来に目を向けたとき、演奏会にお越しただくお客様は今の小学生や中学生。墨田区にフランチャイズしている新日本フィルは区に支援をいただいて、区内小中学校でのアウトリーチ活動やトリフォニーホールでのオーケストラ鑑賞教室を行っています。みな、子どもの頃にとっても近い距離でオーケストラに接する機会をもつので、オーケストラに対する距離や感覚もかなり近いはず。実際のコンサートでも、子どもたちは初めて見る美しい楽器や迫力ある生演奏に釘付けになり、とても楽しそうです。コンサートホールで音楽を聴くこと、生で音楽を聴くこと、その一回は“点”かもしれませんが、もしかすると30年、40年、50年後かにそれらが“線”となり「未来の音楽界を盛り上げるファン」に繋がるかもしれない。大人になった子どもたちが何かのきっかけで昔の音楽体験を思い出して演奏会に足を運び、オーケストラのファンになってくれることがあるかもしれません。こういった活動の積み重ねが将来の音楽界を、ひいては世の中を元気に豊かにするのではないのでしょうか。お金に換えられない財産を築くこと、これが社会にとってのオーケストラの存在意義のひとつかもしれません。

演奏する側とそれを聴く側、その両者が存在して初めて成立するこの文化を守るため、今後も活動を続けてまいりたいと思います。

*アウトリーチ活動の様子は、毎号のプログラム誌上 inside にてご報告しています。